

2025 年8月の報告と検討項目

1. リチウムイオン電池の処分方法について―藪田課長を交えて

近年、全国各地でリチウムイオン電池の不適切な廃棄による火災や発煙事故が多発し、社会問題化しています。芦屋市でも、収集車や処理施設における安全確保の観点から、適正な分別と回収が急務となっています。先月の会議に引き続き、今月もこの重要課題を取り上げ、より具体的な解決策を検討します。

国レベルでも対応が進み、経済産業省は来年 4 月から、モバイルバッテリー・スマートフォン・加熱式たばこ機器の 3 品目について、製造・輸入事業者へ回収およびリサイクルを義務づける方針を決定しました。これにより、製品のライフサイクル全体での安全管理と資源循環が強化される見込みです。

今回の会議では、芦屋市環境施設課の藪田課長をお招きし、市として定める正しい廃棄方法を改めて学ぶとともに、現状の周知方法や市民への情報発信に関する課題を共有します。また、当会として事前にまとめた「芦屋市 HP の説明改善提案」をもとに、実際の改善可能性を課長と直接意見交換し、行政と市民が連携して進められる取り組みを探ります。

さらに、私たち市民が日常生活の中で実践できる工夫や、地域内での回収促進策についても議論を深め、具体的なアクションプランとして取りまとめる予定です。皆様の経験やアイデアを持ち寄り、実効性のある対策づくりを進めていしましょう。。

2. 令和7年度のパイプライン補修計画について

芦屋市のホームページ上では、既に「芦屋市廃棄物運搬用パイプライン施設輸送管補修工事（Ⅰ系・Ⅱ系幹線）」の入札が開始されています。これは市全体のごみ収集インフラの維持管理において重要な位置を占める事業であり、老朽化が進む幹線輸送管の機能を安定的に維持するための大規模な補修工事です。

今年の補修計画は、施設の安全性確保と長期的な運用コスト削減の両面を目的としており、破損や漏洩のリスクが高まっている箇所の優先的な修繕、配管内部の腐食防止対策、さらに運転効率を高めるための部分的な設備更新を含みます。

ワーキング・グループでは、これまでに市担当部署から「本年度のパイプライン施設補修計画」について詳細な説明が行われています。本会議では、その説明内容を改めて共有するとともに、工事の実施スケジュール、作業期間中の運用体制、居住者への影響や周知方法などについても報告いたします。さらに、必要に応じて工事範囲や優先順位に関する意見交換を行い、利用者としての視点から市の計画に反映できる提案を検討していきたいと考えています。

3. ワーキング・グループからの報告

今月から、ワーキング・グループの議事進行に外部ファシリテーターが加わり、会議運営の円滑化と議論の活性化を図る体制がスタートしました。ファシリテーターの役割は、参加者全員の意見がバランスよく引き出されるよう進行を調整し、議題ごとに論点を整理することです。これにより、議事録作成や結論整理もスムーズになることが期待されます。本報告では、初回の進行状況や参加者からの反応、今後の運営改善に向けたポイントについてもお伝えします。

4. その他

先月に引き続き、当会が運営するホームページの新着情報を紹介します。今回は、全国のごみ収集パイプライン施設の稼働状況を調査・整理し、その結果をまとめました。調査の結果、これまでに全国で10箇所のパイプライン施設が既に廃止されており、現在も稼働中なのは5箇所にとどまっています。これらの施設の運営状況や廃止に至った経緯、運営継続のために取られている対策についても、概要を報告します。

また、前回の会議で参加者からいただいた「パイプライン代替案」に関する意見・要望を集約しました。これには、収集方法の安全性確保、コスト負担の軽減、利便性の維持など、多方面からの視点が含まれています。本会議では、それらの要望を改めて共有し、次の検討段階に向けての方向性を確認したいと考えています。